

「満ち満ちて」

—二稿—

2026/2/9

へ人物表へ

アイカ (30)

自殺グループのメンバー

コージ (34)

自殺グループのメンバー

フジ (50)

自殺グループのリーダー

ミヨウジン (39)

自殺グループのメンバー

## 1. 山道（夜）

夜道を猛スピードで走る一台のバン。

## 2. 車の中（夜）

走行する車内。運転席のフジ（50）。ビール缶をグビグビと流し込む。顔は赤い。

後部座席のフラットシートに体操座りするコージ（34）とミヨウジン（39）、アイカ（30）。

アイカのスマホ。トーク「9/5自殺（5）」を開く。メンバー一覧。匿名アカウント五名の名前。

アイカ、左の手首を掻きむしる。リストカットの傷跡から血が滲み出す。

「S」からの通知。「返事しろ」「殺すぞ」「逃げられると思うなよ」など通知が執拗に鳴り続ける。電源を切り、顔を伏せる。

## 3. 山道の中腹・駐車スペース（夜）

停車するバン。他には車も人もない。

## 4. 車の中（夜）

フジの声「あ、酒飲みたい人いるー？」

と、酒の缶を差し出すも、誰も受け取らない。

フジ 「なんだよ。楽しもうよ」

と、プシュッと開けて自分で飲み始める。

フジ 「じゃあさ、セックスしない？ 最後まできたらセックスしたいんだけど。（アイカに）え、どう？」

アイカ、目を逸す。

フジ 「流石に俺じゃ嫌か」

と、ガハガハ笑ってコージを指し、

フジ 「じゃあ、その若いのと、そこ。試合決定。なんつって

と、笑うが、白けているのに気づき、急に落ち着く。

フジ 「別にいいか。じゃあもうやっちゃう？」

と、袋からガムテープや、練炭の箱を取り出す。

フラットシートの中央には、七輪。

アイカ「沈黙を破って、  
一本だけ、飲みたい」

フジ「手を止めてニヤリと笑い、  
「そう来なくっちゃ」

## 5. 山道の中腹・駐車スペース（夜）

夜は深まり、虫の鳴き声が大きく聞こえる。

コージ、一人外でタバコを吸っている。

バンからは、アイカとフジの息と声。

## 6. 車の中（夜）

フジとアイカ、下着を捨てて身に付けている。  
ミョウジン、目のやりどころに困っている。

フジ「アイカって本名？」

アイカ「……うん」

フジ「なんで死にたいの」

アイカ「どうせ、殺されるから」

フジ「誰に」

アイカ「わかんない。ヤバい奴」

フジ「逃げれば」

アイカ「多分、無理」

フジ「何した」

アイカ「金、盗んだ」

傍には、アイカの鞆。札束が覗いている。

フジ「……ここまでは来ねえだろ」

アイカ「盗んだ奴は皆んな殺されてる」

フジ、ふっと笑う。

フジ「そのままそいつに殺してもらえばいいじゃねえの」

アイカ「……早くやろう」

フジ「それか俺がやろうか」

と、アイカの首を掴み、力を込める。

アイカ、抵抗するでもなく、ぎゅっと目を瞑る。

と、バックドアが開く。

コージ「……あ、終わりました？」

アイカ、はたと顔を上げ、なんでもない風に頷く。  
「外、行きませんか？」

アイカ、戸惑って、顔を逸らす。

コージ「さっきあっちに、ホタルいたんです。結構いっぱいいて、その、ちょうどいいかなと思って。思い出に」

## 7. 山道の中腹・獣道（夜）

駐車スペースの後方には、獣道の入り口。

コージ、スマホのライトを握り、ゆっくり獣道を下って行く。

コージ「やっぱり山の方だから、まだいるんですよ」

ミヨウジン「ああ、なるほど」

と、足元に気をつけながら、おっかなびっくりでコージにゆっくりと続いている。さらに続くアイカ。

## 8. 車の中（夜）

フジ、後部座席で一人、爆睡。

## 9. 山道の中腹・獣道（夜）

コージ「ミヨウジンさん、でしたよね」

ミヨウジン「え、ああ。一応、そうですね」

と、照れ笑いしながら、獣道を掻き分ける。  
コージ、フランクな感じになって、

コージ「どうしてここに？」

ミヨウジン「その、まあ上司と色々あって、嫌になって」

コージ「え、やば。パワハラとかっすか？」

ミヨウジン「いやー、それはいいじゃないですか」

と、貼り付けたように笑う。

コージ「後悔とかしないですか？」

ミヨウジン「まあ、大丈夫です」

コージ「なんか心残りとかさ、あるでしょ。教えてよ」

ミヨウジン「いや、ないです」

コージ「なんかあるよ。あんたみたいなのでも。いや、ないのか」  
ミヨウジン「……はい、特に。あの、大丈夫です」

コージ「そっすか」

コージ、立ち止まる。

ミヨウジン、続いて立ち止まって、

ミヨウジン「え、あ？　ここですか、ホタル」

と、周囲を探す。アイカ、それに倣う。

コージ「じゃあ、もういっか」

と、振り返って、あっという間にミヨウジンを羽交

い締めにする。勢いよく首に手を掛け、力を入れる。

ミヨウジン、倒れる。

アイカ、呆然。

コージ、ライトをアイカに向ける。

コージ「あ、安心してください。全然痛くないんでこれ。まだ練

習中ですけど、多分痛くないと思います」

コージ、ライトで地面を照らすと、仰向けになった

ミヨウジンの首が、あらぬ角度に曲がっている。

アイカ、腰が抜ける。

コージ「ちなみに、練炭は苦しいらしいですよ。皆んなすぐ気絶す

るって言いますけど、車にテープ貼るぐらいじゃ密閉で

きないっぽいっす」

と、スマホをポケットに収め、あたりは真っ暗。

アイカ、立てない。

コージ「あ、立てます？」

と、手を差し伸べるが、アイカ、固まる。

コージ「え、なに？」

アイカ、ハツとして、必死に後退り。距離を取る。

コージ「あー、めんどくせ。あーのさ、死にたくて来たんだよね？」

と、駐車スペースの方から、明かり。

## 10. 山道の中腹・駐車スペース（夜）

フジ、獣道の入り口で懐中電灯をかざしている。

フジ 「おい、まだかよ？　早くしろよ」

## 11. 山道の中腹・獣道（夜）

コージ「うわ、めんどくせー」

と、入り口のフジの方を見上げる。  
アイカ、ピクンと痙攣しているミヨウジンの顔と目  
が合ったような気がして、思わず息を呑む。

フジの声「おーい」

コージの声「こっちはこっちでやってっからー。邪魔すんなー」  
と、大きい声。

フジの声「はは、そりゃ悪かった」

コージ、ゆっくりとアイカに歩み寄る。

アイカ、大きな声を出そうとするも、息が揃わず、  
声にならない。

びゅっと目を瞑り、手首の傷を掻きむしる。

コージ、しゃがんで、アイカの首を掴む。

アイカ、どうにか声を絞り出して、

アイカ「……触んな」

アイカ、ビンタする格好でコージの手を振り払う。

思いのほか、強く当たる。

コージ「分っかんねー」

と、急に冷めた顔。タバコを取り出して吸い始める。

### 12. 山道の中腹・駐車スペース（夜）

別のバンが走り込んできて、フジの車の隣に停車。

### 13. フジの車の中（夜）

フジ、アイカの鞆を物色。手には札束。

と、何者かがバックドアを開ける。

銃声。

### 14. 山道の中腹・獣道（夜）

アイカとコージ、音のした方を見る。

と、獣道の入り口から懐中電灯の光。

コージ「……逃げる？」

アイカ、頷く。

コージ、タバコを足で消す。

（おわり）